

## 部局 FD 活動報告

①都市教養学部 人文・社会系／人文科学研究科		
取り組みの現状	学生による授業アンケート等	各教室によって学問的方法論、教育の技法、学生数などが異なるため、現在、学系／研究科の取り組みとして、学生による授業評価アンケートは実施していない。統一したアンケートをとっても、異なる教室で比較参照することが困難で、さほど効果的ではないためである（独自にFDアンケートを実施している教室もある）。その代わりに、各教室ごとに、少人数体制における教員と学生の密接な対話を通じて、授業の質や教育の方法に関する意見交換がつねにおこなわれ、授業改善に役立っている。
	研究会・講演会・セミナー等	全学で実施するFDセミナーや講演会に参加して、授業改善に向けた理解を深めた。学系・研究科単位での研究会は開催されなかったのが今後の課題としたい。
	その他	
今後の予定・展望		今後は各教室で収集された有意義な意や建設的な批判を、学系／研究科の全体でいかに共有するかについて議論していく必要がある。今年度は講演会やセミナーの開催がなかったのが、来年度は実施して、教員間の授業改善への意識向上を促したい。

②都市教養学部 法学系法律学コース・政治学コース		
取り組みの現状	学生による授業アンケート等	通年開講の専門教育科目（14科目）を対象として、学生による授業評価アンケートを実施した。年度末までに集計結果をまとめ、各担当教員にフィードバックし、来年度以降の教育活動の改善に役立てる。
	研究会・講演会・セミナー等	「法学系FD委員会」（「大学院社会科学研究所法学政治学専攻FD委員会」と合同。大学院（社会科学研究所法学政治学専攻）主任、FD委員、教務委員、基礎教育部会委員で構成）を組織している。
	その他	
今後の予定・展望		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでに8年にわたって実施した授業評価アンケートの結果を、個々の教員のレベルにおいて、自らの担当する授業や教育環境の改善に反映させていく。</li> <li>・ 法学系のFD活動のあり方に関する法学系FD委員会における議論をより活発化させる。</li> <li>・ 各専門領域の教員間で、カリキュラムや講義のあり方について検討する機会を定期的に設け、法学系全体の教育効果の改善・充実につなげていきたい。</li> </ul>

③社会科学研究科 法学政治学専攻

取 組 み の 現 状	学生による 授業アンケート等	各クラスの受講者が極めて少ないため、学生による授業評価はなじまない。授業の効果は、研究者養成を主眼とする大学院の場合、各分野における総合演習や修士論文・博士論文といった成果によって評価される。
	研究会・講演会・ セミナー等	<p><b>【全体の取り組み】</b> 「大学院社会科学研究科法学政治学専攻FD委員会」（「法学系FD委員会」と合同。大学院（社会科学研究科法学政治学専攻）主任、FD委員、教務委員、基礎教育部会委員で構成）を組織している。</p> <p><b>【政治学分野】</b> ① 毎月、教員・院生全員が参加する「政治学総合演習」を開催し、研究・教育水準の向上を図っている。 ② 毎月、政治学分野の教員による「スタッフミーティング」を開催し、大学院の教育及び研究指導等に関する意見交換を行っている。 ③ 政治学分野に所属する全教員・院生で構成される「政治学FD会議」を開催している。政治学FD会議は、学期初の回（4月・10月）では、教員が当期の講義・演習の概要・趣旨等を説明し、意見交換を行う。これを踏まえ、学期末の回（7月・2月）では、学期初に掲げた授業目標の達成度等に関する情報交換を行うと共に、講義・演習に参加した院生との意見交換を行い、授業内容の改善に努めることとしている。</p> <p><b>【法律学分野】</b> ① 教員・院生全員が参加する「法律学総合演習」を定期的で開催し、研究・教育水準の向上を図っている。 ② 毎月、法律学分野の教員による「スタッフミーティング」を開催し、大学院の教育及び研究指導等に関する意見交換を行っている。</p>
	その他	
今後の予定・展望	2007年度から大学院FDの実施が求められていることを踏まえ、法律学・政治学総合演習等を中心とした自己点検・評価及びFD活動のさらなる充実に向けた検討を、大学院社会科学研究科法学政治学専攻FD委員会を中心に行っていく予定である。	

④社会科学部 法曹養成専攻		
取 組 み の 現 状	学生による 授業アンケート等	法科大学院の教育等の改善及び充実のためのアンケート調査を、各学期ごとにすべての法科大学院性を対象に実施している。このアンケート調査において、すべての授業科目について学生による授業評価を行うとともに、あわせて授業内容や方法、学習支援体制（オフィスアワーなど）、施設や設備等に対する要望等を尋ねている。授業評価のほか、授業に関する要望について当該科目の担当教員にフィードバックし、教育活動等の改善に役立てている。このアンケートで挙げられた要望等をFD会議で検討し、学習環境の改善に役立てている。
	研究会・講演会・ セミナー等	① FD会議等の実施 毎月1回、授業を担当する教員から構成されるFD会議を開催し、学生の学習状況や授業方法等についての情報の共有化を図るとともに、法科大学院における教育等についての意見交換を行っている。さらに、専門領域ごとにFDに関するミーティングを適宜開催している。 ② 各種の団体が実施するセミナー等への参加 法科大学院教育、司法試験、第三者評価等に関して、法科大学院教会、大学評価・学位授与機構、日弁連等の各種団体が実施する検討会やセミナー等に参加している。
	その他	2004年度は、法科大学院設置申請に際して、文部科学省による教員審査を受けている。また、2004年11月、2005年7月に文部科学省による法科大学院設置年次計画履行状況実地調査を受け、2006年11月に、文部科学省による法科大学院設置計画履修状況面接調査を受けた。さらに、2008年度、2013年度には、法定化されている大学評価・学位授与機構による法科大学院認証評価（第三者評価）を受けた。なお、2007年度以降、法科大学院の各年度における自己点検・評価結果については、外部委員による評価を行い、年度ごとの自己評価書を公表している。
今後の予定・展望	2013年度の法科大学院認証評価の結果を踏まえ、法科大学院における教育・研究の質の向上を実現すべく、上記のような取り組みを継続する。 しかし、継続的に上記のような取り組みを実施し、法科大学院をより良いものとするために人的体制を整備する必要があることは、文部科学省による法科大学院設置計画履行状況の面接委員、法科大学院認証評価結果等において指摘されているところである。 したがって、今後も、優秀な教員を採用するための人事枠・制度の拡充、正規雇用職員の増員を中心とする事務体制の整備、これらを可能にする予算措置を至急講じなければ、適正な法科大学院の運営はきわめて困難である。今後も法科大学院認証評価（第三者評価）を受けるうえで、管理課長が週に一度（2時間程）しかない現在の事務体制の強化が必須である。	

⑤都市教養学部 経営学系		
取り組みの現状	学生による授業アンケート等	前期開講の全科目（前期・通年）の授業アンケートを実施した。計48科目の実施となる。実施期間は、2013年6月7日（金）から6月20日（木）まででWEB形式であった。前期の回答率は、23.4%であった。また後期は、新規・再開の科目について授業アンケートを行った。計5科目の実施となる。実施期間は2013年11月18日（月）から 11月29日（金）まででWEB形式であった。
	研究会・講演会・セミナー等	FDセミナー等について積極的に呼び掛けるとともに、教員間で授業改善に関する意識を高めるための情報交換などを行った。
	その他	
今後の予定・展望		学生の能動的な学習を促すために、教員間で授業に関する意見交換を行っていく。

⑥社会科学部 経営学専攻		
取り組みの現状	学生による授業アンケート等	前期は、アンケート実施期間中開講している全科目の授業アンケートを行った。計20科目の実施となる。実施期間は、2013年7月8日（月）から 7月26日（金）でWEB形式であった。前期の回答率は、37.88%であった。また後期も、アンケート実施期間中開講している全科目について授業アンケートを行った。計24科目の実施となる。実施期間は2014年1月14日（火）から 1月27日（月）までで、WEB形式となる。
	研究会・講演会・セミナー等	本専攻の高度専門職業人養成プログラムにおいては、継続的に教員間で意見交換を行い、授業改善に努めている。また、FDセミナー等について積極的に呼び掛け、能動的な学習の導入を目指している。
	その他	2007～2009年度に重点的な財政支援を受けた「公共経営の人材育成プログラム」の成果を広く社会に還元する努力・工夫を行っている。
今後の予定・展望		学生の能動的な学習を促すために、教員間で授業に関する意見交換を行っていく。

⑦都市教養学部 理工学系		
取り組みの現状	学生による授業アンケート等	<p>(1) 理工学系6コースのすべての専門教育科目に対して、前期(7月)に「学生による授業評価」調査を、後期(1~2月)に「授業改善のためのアンケート(学生用)」調査を実施した。質問項目の検討を行い、一部修正・削除を行ったが、年変化を追跡できるよう配慮した。自由記述式の設問は全学アンケートに準じた。アンケート依頼書の文面についても変更した。結果は個々の担当教員に示すと同時に、理工FD委員会で討議し、課題や授業改善の到達状況を共有化することに努めた。また、過去5年間のアンケート結果の経年変化のグラフ化を行い、概ね評価が上昇していることを確認すると共に、今後の課題の検討を行った。</p> <p>(2) 授業担当者が設問できる問いを積極的に利用してもらうよう、前期・後期とも「質問例集」を作成し、授業担当者に配布した。</p> <p>(3) 授業担当者に対して行っていた従来の「授業改善のためのアンケート(教員用)」を中止し、その代わりに、これまで隔年に実施されてきた教員用の「授業評価アンケート二次調査」を「理工学系専門教育科目に関する授業改善アンケート」として、年1回実施することにした。それを翌年度の講義環境の改善に役立てることとした。</p> <p>(4) 昨年度後期分の学生アンケートの集計結果を6月に、今年度前期分の学生アンケートの集計結果を11月に、それぞれ各教員へ返却した。学生の自由記述については、FD委員会でフィルタリング後、原文のまま各授業担当者に返却した。</p> <p>(5) 前年度までの学生および教員に対するアンケートに基づき、5段階評価の4と5の割合の経年変化を調べた結果、学生による評価が毎年上昇傾向であることを確認し、各コースの教員に知らせた。</p>
	研究会・講演会・セミナー等	毎月、理工学系FD委員会を開催し、各コースにおけるFD活動の報告と意見交換を行うと共に、授業アンケートの方法、成績評価基準、セミナー実施など理工学系FD委員会として検討すべき事項について議論を行った。
	その他	前年度の教員に対する授業改善アンケートに基づき、一つの教室の改修(スライドを斜めに投影し、板書を同時に利用可)を、その教室を利用する全教員の了解を得て行った。また、不要な備品の廃棄を行った。
今後の予定・展望		学生による授業改善のためのアンケートを今後も実施し、今後のさらなる改善点を検討する。アンケート結果の経年変化などの情報を、学生に知ってもらうためのパンフレットを来年度には作成する。また、教員向けにも授業改善に役立つ小冊子を作成する。講義環境の改善について、これまで通り継続して取り組んでいく。

⑧理工学研究科		
取り組みの現状	学生による授業アンケート等	6専攻において、個々に大学院生に対するアンケート調査などを行い、理工学系FD委員会でその結果を審議した。大学院生の場合、授業を受講する時間より、研究室で研究活動に費やす時間が圧倒的に多いことを考慮して、大学院講義に対する評価に加え、研究に対する満足度、研究環境、研究・勉学へのサポート体制に対する要望収集も質問項目に含められている。FD委員会のみでは改善が困難な場合は、適宜、教務委員(大学院担当)、専攻長などとも相談し、改善を図った。
	研究会・講演会・セミナー等	理工学研究科では、各専攻においてカリキュラムや講義内容を検討する会合を持ち、授業改善と研究環境改善に関する施策を日々行っている。また、毎月、理工学研究科FD委員会を開催し、各専攻におけるFD活動の報告と意見交換を行うと共に、学生アンケートの方法など、理工学研究科として検討すべき事項について議論している。
	その他	
今後の予定・展望		大学院の授業改善については、それぞれの授業の特殊性、専門性も考慮して、各専攻ごとに今後も議論を深めていく。

⑨都市環境学部		
取り組みの現状	学生による授業アンケート等	非常勤講師担当科目、実験・演習などの科目及び受講者数が10名程度以下の科目を除く今年度開講科目について、前期、2013年7月1日（月）～7月19日（金）の期間にアンケートを行った。アンケートの実施・回収状況は、以下の通りである。 学生アンケートは、対象科目数 67、返却科目数 63、履修登録者 2,954、回答者数 2,185だった。教員アンケートは、対象教員数（延べ人数）109、返却教員数 86だった。後期については、2014年1月14日（火）～1月27日（月）の期間にアンケートを行った。
	研究会・講演会・セミナー等	
	その他	アンケートの教員へのフィードバックに関しては以下の通り。 1 個々の科目データについては、主担当教員へ配信。 2 今回添付したデータ並びに自由記述については、都市環境FD委員会にて共有。
今後の予定・展望		学生による授業評価・教員による授業評価結果を次年度の授業に活用することによって、改善に取り組んでいく。なお、評価結果の教員へのフィードバックについては、記述式の内容を委員会で吟味し、より早く教員に伝えるような体制を構築していきたい。

⑩都市環境科学研究科		
取り組みの現状	学生による授業アンケート等	非常勤講師担当科目、実験・演習などの科目及び受講者数が10名程度以下の科目を除く今年度開講科目について、前期、2013年7月1日（月）～7月19日（金）の期間にアンケートを行った。アンケートの実施・回収状況は、以下の通りである。 学生アンケートは、対象科目数 24、返却科目数 22、履修登録者 582、回答者数 448だった。教員アンケートは、対象教員数（延べ人数）52、返却教員数 39だった。後期については、2014年1月14日（火）～1月27日（月）の期間にアンケートを行った。
	研究会・講演会・セミナー等	
	その他	アンケートの教員へのフィードバックに関しては以下の通り。 1 個々の科目データについては、主担当教員へ配信。 2 今回添付したデータ並びに自由記述については、都市環境FD委員会にて共有。
今後の予定・展望		学生による授業評価・教員による授業評価結果を次年度の授業に活用することによって、改善に取り組んでいく。なお、評価結果の教員へのフィードバックについては、記述式の内容を委員会で吟味して、より早く教員に伝えるような体制を構築していきたい。

⑪システムデザイン学部		
取り組みの現状	学生による授業アンケート等	システムデザイン学部で開講された授業（演習、実験科目を除く）について、学生による授業改善アンケートを前期開講科目については2013年7月、後期開講科目については2014年1月に実施した。アンケート結果を各科目毎にまとめ、各授業担当教員にフィードバックを行った。また、SD学部・研究科FDニュースとして配布、周知を行い、授業改善に努めた。本年度もこれまでと同様に授業担当者による任意の質問を2項目設け、授業担当教員が知りたい事項についてのアンケートを行えるようにした。また、自由記述欄のフィルタリングについても、授業に関する内容であれば辛辣な表現であっても授業担当者へそのままフィードバックを行うこととしている。
	研究会・講演会・セミナー等	2013年11月6日開催の首都大学東京FDセミナー「授業の理解を深めるアクティブ・ラーニングの導入」について、テレビ会議システムを用いて日野キャンパス会場（1号館2階会議室）への中継を行った。
	その他	授業を円滑に行うために、教室設備（OA機器）の消耗品を購入した。
今後の予定・展望		今後も引き続き学部・研究科合同のFD部会を定期的に行い、全学FD委員会との連携、FDの共通認識の形成、具体的取り組みの実施検討を行う。システムデザイン学部実施の授業評価アンケートについて、実施科目の見直しも含めて、来年度中に協議する。さらに、アンケートの質問項目の削減を含めた再検討や個々の教員の授業改善へ繋げて行く方策などを検討したい。

⑫システムデザイン研究科		
取り組みの現状	学生による授業アンケート等	システムデザイン学部で開講された授業（演習、実験科目を除く）について、学生による授業改善アンケートを前期開講科目については2013年7月、後期開講科目については2014年1月に実施した。アンケート結果を各科目毎にまとめ、各授業担当教員にフィードバックを行った。また、SD学部・研究科FDニュースとして配布、周知を行い、授業改善に努めた。本年度もこれまでと同様に授業担当者による任意の質問を2項目設け、授業担当教員が知りたい事項についてのアンケートを行えるようにした。また、自由記述欄のフィルタリングについても、授業に関する内容であれば辛辣な表現であっても授業担当者へそのままフィードバックを行うこととしている。
	研究会・講演会・セミナー等	2013年11月6日開催の首都大学東京FDセミナー「授業の理解を深めるアクティブ・ラーニングの導入」について、テレビ会議システムを用いて日野キャンパス会場（1号館2階会議室）への中継を行った。
	その他	授業を円滑に行うために、教室設備（OA機器）の消耗品を購入した。
今後の予定・展望		今後も引き続き学部・研究科合同のFD部会を定期的に行い、全学FD委員会との連携、FDの共通認識の形成、具体的取り組みの実施検討を行う。システムデザイン研究科実施の授業評価アンケートについて、実施科目の見直しも含めて、来年度中に協議する。さらに、アンケートの質問項目の削減を含めた再検討や個々の教員の授業改善へ繋げて行く方策などを検討したい。

⑬健康福祉学部／人間健康科学研究科

取 り 組 み の 現 状	学生による 授業アンケート等	健康福祉学部で前期・後期に開講された全ての科目について、学生による授業改善アンケートを実施した。そして、健康福祉学部・人間健康科学研究科FD委員会部会が行う授業（専門科目）改善アンケートの取り扱いに関する内規を新たに定め、また、アンケートの自由記述部分の削除方針を決定した。後期は、全回答結果に基づく学年別および講義・演習・実習別の計7種類の集計を新たに加え、授業担当教員にフィードバックした。
	研究会・講演会・ セミナー等	全学で行うFDセミナーを広く周知し、参加を促した。（2回目はテレビ会議システムを通じての参加が主）また、グループワーク学習促進のためのファシリテーターの役割と題した部会セミナーを実施した。
	その他	健康福祉学部・人間健康科学研究科FD委員会部会を5回開催した。
今後の予定・展望		全教員におけるFDに関する共通認識の形成を中心課題として取り組んで行く。また、個々の教員レベルにおける優れた授業改善の取り組みの情報を共有する仕組みを作る。